

学習漫画をきっかけにジェンダーの視点から歴博展示を考える
逗子開成中学校・高等学校 片山健介

1. 実施学年及び教科・領域

学年 中学校第1～第3年選択希望制授業 / 領域 社会科・歴史的分野

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名 第二部「第一章 古代国家の成立と東アジア」

「第一節 人類の登場から文明の発生」

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

『中学校学習指導要領【社会編】』歴史的分野の内容「(1) 古代までの日本」「(イ) 日本列島における国家形成」にある「日本列島における農耕の広まりと生活の変化」について、歴博の模型展示・歴史学習漫画などを資料として活用することで、「課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う」実践を目指す。各資料の読み解きを通じて、歴史における性差（ジェンダー）の視点を含めた多様な歴史的な視点を学び、「時期や年代、推移、現在の私たちのつながりなどに着目」し、「時代区分との関わりなどについて考察し表現する」力の習得を考えていきたい。

②単元の目標

- (ア) 歴史学習漫画や展示資料に興味・関心を持ち、歴史における性差の視点についてまとめることができる。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (イ) 資史料や展示資料を比較・検討し、まとめることができる。(資料活用の技能)
- (ウ) ワークシートを通じて、古代社会を多面的・多角的に考察し、自身の言葉で表現することができる。(社会的な思考・判断・表現)
- (エ) 縄文時代の社会や文化の特色についての基本的な事柄を理解し、考えることができる。(社会的事象についての知識・理解)

(3) 博物館との関連

①活用方法 「来館型活用」

②活用資料

- ・ 第一展示室 三内丸山遺跡ジオラマ模型
ガラス製頭飾（京都府赤坂今井墳丘墓）など

(4) 指導観

グローバル化時代に対応するための歴史教育とはどのようなものであろうか。論点は複数あるのであろうが、歴史学習における女性の位置づけやジェンダーの視点をどのように盛り込んでいくかについては課題の一つであろう。ジェンダーの視点は、公民学習の中における人権教育の中で論じられることはあっても、歴史教育の中では手探りの段階にある。SDGs（持続可能な開発目標）の中には、「5 ジェンダー平等を実現しよう」の項目がある。歴史教育や社会科教育において、このジェンダー平等について、どのように扱っていくかを示した教育実践や研究は少ないように思われる。本実践では、歴史学者の立場か

ら学校教育の日本史について言及している、久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵編『歴史を読み替える ジェンダーから見た日本史』（大月書店 2015）や久留島典子「高校の日本史教科書にみるジェンダー」（『歴史教育とジェンダー 教科書からサブカルチャーまで』（青弓社 2011）などを参考にして、国立歴史民俗博物館（以下「歴博」）における模型展示から、縄文時代研究やジェンダーに関わる諸問題を考えた。

第一展示室を中心に活用し、歴史的事象を生徒たちなりに解釈し、まとめる授業実践を試みた。その際には、展示を一資料として捉えることで、展示の細部を鑑賞し、その展示の根拠や考え方の背景にどのような問題があるのか考える訓練を試みた。感じたままに展示を見るのではなく、ジェンダーという展示の見方の一例を知ることを通じて、展示にこめられた意図や問題意識の読み取りを目指した。

3. 指導計画（博物館内授業 3 時間扱い）

* 当日は、コロナ禍のなかの実施であったため、班を 2 つに分けて実施したが、ここでは便宜上、片方の班の行動を紹介する。なお、研修室利用やグループワーク実施に制約があったことを付記しておく。事前課題と当日課題は末尾に掲げておく。

過程	時間	○学習活動 ●学習内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
事前指導		○ 新聞資料・事前課題プリントに取り組む（後掲事前課題）	■ 歴史学習漫画を観察し、読み取ったことを自分自身の言葉で表現している。 〈事前課題プリント：思・技〉
当日指導	5 分	● 博物館内における注意 コロナ禍マナー	□ コロナ禍のため、屋外にて解説した。
展開 ① 屋外	15 分	○ 参加者全員の事前課題の答えを確認する。	□ 各生徒の答えやコメントを紹介し、参加者全員の関心が持続するよう工夫する。 ■ プリントにまとめた内容を自身の言葉で的確に表現している。〈発言内容：思〉
		○ 他者の意見をメモにとるよう指示する。 ● 歴史学習漫画の描き方の変化に関する教員解説を、メモにとるよう指示する。	□ 他者がどのように考え、どのような答えを導き出しているのかを知り、自分自身の意見との相違を考えさせる。 ■ 新・旧歴史学習漫画における「縄文時代社会の描き方の相違」に関する解説をもとに、性差の視点による相違を考える。 〈関・知〉
展開 ② 第 1 展示室	15 分	○ 第一室内模型展示を通じて、性差（ジェンダー）の視点を学び、当日課題①に取り組む。 ● 展示を見る視点を学ぶ	□ 事前課題との関連をふまえ、当日課題①に明記の、性差の視点について、三内丸山遺跡などの展示をもとに説明する。 ■ 模型内の人物について、何をしているのか、どんな人なのか問うことで、縄文時代の文化について考える。〈関・知〉

展開 ③ 展示 見学	100 分	○	特別展「性差の日本史」を各自見学。終了後、自由見学とし、当日課題②③（後掲）に取り組ませる。	□展示室内ではメモをとるよう指示する。 □性差の視点についてのアドバイスを適宜行う。 ■各資料をよく観察して、まとめている。 〈当日課題：技・知〉
展開 ④ 屋外	15 分	○ ●	当日課題を回収し、発表。	■まとめた内容を、的確に表現できている。 〈発表内容：関・思〉 □多様な歴史の描き方があることを確認する。
事後 指導		○	後日、生徒の提出した課題をまとめ、教員のコメントを加えたものを参加者全員に配布し、当日の疑問点を整理する。	□展開④においてコメントできなかった点や重要事項等を中心にまとめる。

4. 実践の概要

参加者合計 19 名（中 1：10 名、中 2：6 名、中 3：3 名）に対して実施した。本授業は、勤務校の土曜講座という選択制授業の仕組みの中で実施した。土曜講座は、中 1～高 2 までが自由に選択する一回完結の授業である。筆者は、「そうだ！博物館へ行こう！！」という講座を担当している。現地集合・現地解散で実施している。メリットは、異学年交流や興味関心の高い生徒の参加が多い点、デメリットは学習段階にムラがある点、事前事後学習が実施しにくい、などの諸点をあげることができる。メリットの方が大きいと考えているため、10 年以上、各地の博物館や美術館を訪問させていただいてきた。本実践は、以下のような流れで行った。

（1）事前課題について

事前課題「歴史学習漫画が描く縄文時代」（後掲）を配布し、取り組ませた。あわせて、以下の新聞記事を「朝日けんさくくん」より紹介し、LGBT 等含めごく簡単な説明を付したプリントを配布し、当日までに読むよう指示しておいた。

・「社会の「男らしさ」問い直す」（2020 年 9 月 28 日記事）

・「いちからわかる 日本の男女格差最悪だって？」（2020 年 12 月 28 日記事）

なお、当日は、この事前課題の確認からスタートした。三つの問いを準備し、どれも新旧の学習漫画の比較を通じて答えさせた。事前内容は発表させ、以下の三点を伝えた。

①Q1) を通じて、漫画の描かれ方を見て家族関係を推測することで、展示室内の資料を観察する視点を養う。

②縄文時代の男女の生業について考えるきっかけとする。

③「女性が家、男性が外」という固定観念を考えるきっかけとする。

Q1) 中1生徒 A君→「父・母・兄・弟・姉・妹・末っ子」

Q2・3) 中1生徒 B君→「資料 Cと資料 Dで男が狩り、女は採取という役割が固定されているが、資料 Eではその役割分担が曖昧なものとなっている。」

家族構成を聞いた Q1) では、中1生徒でも、髪の毛・衣服・持ち物等から推測することで結論を導きだしており、細部を見る視点を十分に伝えることができた。そして、衣服・採集・道具・仕事などへの関心は展示室における着眼点となった。また、縄文時代の家族像を父系制社会と描くのか、母系制社会と描くのか、といった点について、山田康弘著『縄文時代の社会』（講談社 2019）をもとに説明した。Q2) とあわせて、現在の価値観で歴史をとらえることの難しさを伝えた。

(2) 当日課題①について

事前課題をふまえて、第一室内で三内丸山遺跡の模型を参考に、ジェンダーの視点で展示を見る視点を紹介した。(なお、授業実践当日は特別展「性差の日本史」も鑑賞している。今回の報告では、期間限定であることをふまえて、ワークシート(後掲当日課題③)を紹介するにとどめ、具体的な内容紹介は割愛した。)

考古学におけるジェンダー教育について言及している松本直子の論考などを参考に、

①女性、子ども、老人が成人男性と同程度表現されているか。

②誰の視点で表現されているか、男子の視点に偏っていないか。

③性役割や家族のあり方に現代的なジェンダー観がいかに反映されているか。

という視点を提示した。事前課題でのやりとりに加えて、展示を鑑賞する視点を示すことで、生徒たちなりの発見を意識させた。以下に中1生徒と中3生徒の意見を紹介しておく。

・中1C君

性別に関係なく展示されている／性別をわからなくして仕事の多様性を表現している／子ども～老人までが楽しそうに表現されている／アクセサリー→どちらがつけているかよくわからない。頭や手につけるものがある。／はにわ→男子・女子両方あった→女二人、男一人しかいなかった／アニメ→男女がする仕事が決められているように見えた

・中1D君

男子だけではなく、女子や子どもなどの視点が表現されていた／手伝いや狩りの仕方の様子、食べ物や道具作りまで事細かく書かれていた。

・J3E君

男性は下だけ、女性は上下で服を着ている／三内丸山遺跡の復元模型においてかみをたばねることで男女の違いを作らないようにしている。これよりも前の展示で男女の骨格の違いを展示していたが、対象的に展示することで理解しやすくなっていた。／弥生武人の模型において顔で男女を判別できなくなっていた。

・J3F君

大型建物復元模型にいる人々の髪がみんな束ねられている。子供・老人も色々なところにいる。／成人男性がアクセサリーをつけている絵があった。武器を持っている人を絵ではなく、シルエットにしているのも配慮？／防御施設模型を戦っている人がみんな男に見える／ガラス製頭飾模型で男女の差が分かりにくくなっていた。

(3) 当日課題②について

当日課題①に加えて歴博展示全体を対象に、ジェンダーの視点でみた際の課題と改善点を指摘させた。事前課題の「弓矢を射る女性」のイメージからか、「戦争」を切り口に考えた生徒が多かった。今回コロナ禍もあり、グループ活動を実施出来なかったが、当日課題①と当日課題②の間にグループワークを設け、教員からのアドバイスを挿入することができていれば、もう少し多様な視点が導けたように思う。

・第一室 防御施設模型

問題点 戦いをする際、弓の上手な人が男だけでなく、女もいたと考えられるので男だけでなく、女も戦っていたと考えることができる。

改善点 この模型は男の人しか戦いにいないため、女の人も少し入れた方がいいと思った。

・第六室 全体

問題点 歴史上の出来事である「第二次世界大戦」を展示する上で男性（兵士）についてのことが多くなるのは分かるが、女性（戦時中）についても少し触れるべき。

改善点 女性がどうしていたかを戦前・戦後のようすで比較しながら展示するといい。

・第六室 焼跡・闇市と人々の生活

問題点 レプリカの人形が男性ばかりで違和感を感じた
戦争には男ばかり関わっているというイメージがついてしまう。

改善点 女性も男性と同じように入れて、戦争は様々な人が関わり、苦しんだことを表せるといいと思う。

(4) 当日のまとめと事後配布プリント紹介

屋外に再集合し当日課題①・②のまとめを行った。中1・2生徒は発表した中3生徒の積極的な意見を聞いて刺激を受けた生徒が多く、感想に記す生徒が多かった。

なお、預かった意見をまとめ、事後、生徒に配布した。そのうち注目した意見について以下のようなコメントを付して、参加者の多様な関心を紹介した。生徒たちの関心が拡がることを意識してプリントを作成し、配布した。以下に一例を示す。

第一室の防御模型施設をもとに「戦」における「女性」の描き方に関心を持ってくれたコメントが多くありました。これは、事前課題プリントで弓を使いこなす女性のワンカットを紹介したこととも関わっていると思います。とても鋭い指摘です。女性の戦争参加については、次のような資料を紹介しておきます。

①考古学の事例

弥生時代の人骨に関する殺傷痕の研究から、女性の戦争参加を主張する研究者がいます。

②『日本書紀』卷第十三 舒明天皇九年（637）九月条

「上毛野形名の妻は、夫の剣をはき十の弓を張り、数十の女に命じ弦を鳴らさせた」

『国史大辞典』「上毛野形名 かみつけののかたな」より
生没年不詳。蝦夷征伐の将軍。大仁の冠位をもち、方名とも書く。舒明天皇九年（六三七）、蝦夷がそむいたので征伐にむかったが、逆に敗れて苦境におちいった。そのとき形名の妻は、汝の祖先は海外の国を平げ威武を示した、ここで祖先の名を汚すことはできないとして、強いて夫に酒を飲ませ、みずから夫の剣をはき十の弓を張り、数十の女に命じ弦を鳴らさせた。夫も奮起して進撃し、蝦夷を大いに破ったという（『日本書紀』）。

③『園太暦』文和二（1353）年六月三日条

「今日聞ク、山名勢猛からず、七八百騎歟、其ノ内女騎多シ、此レ何事哉ト云々」

→『園太暦』は室町時代の貴族が書いた日記です。資料の中には、七・八百騎の中に女騎が多くいた、と記します。しかしながら、「これ何事や」と記してありますので、書いた人物は「どういったことだ？」という認識であることが分かりますので、常に当時の女性が「戦」に参加していたことを示す資料ではありません。ただ、「戦」に駆り出されていたこともあった、ということは間違いのないと思います。こういった資料をどのように展示に活かすかはこれからの問題なのかもしれません。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・新旧歴史学習漫画の比較をきっかけに歴博展示の分析につなげる流れを示すことができた。特に漫画の描き方の細部を見るという訓練は、展示の細部を見るという練習になった。
- ・展示にジェンダーの視点を読み取る、という「展示の見方」の一例を示すことができた。男性の視点に偏っていないか、女性・子ども・老人等への配慮があるかどうか、などの視点でみることは、生徒たちが他の博物館や美術館において鑑賞する際の指針になったのではないかと考えている。

- ・歴史における、「性差による男女分業」「男らしさ」「女らしさ」を扱うことの難しさを考える機会を得た。あわせて、博物館内の展示資料そのものに着目するばかりでなく、模型のモデル、映像、展示シルエットにおける描き方など、博物館の多様な仕掛けに気づく機会となった。
- ・歴史における「女性」の存在を、教科書にはない資料で考えることができた。

(2) 課題

- ・性差（ジェンダー）を扱うことの難しさが浮き彫りとなった。特に歴史的な視点と現代的な視点の差は大きい。研究史の中でどれだけ問題視されているかについても、まだまだ課題が多いように思われた。また、展示においてジェンダーがどれだけ意識されているのか、という点そのものにも課題がある。それは、歴博の常設展示において最も新しくリニューアルされた第一室と、それ以外の展示室とを同列では扱えない事とも関わる。生徒たちに混乱をもたらす可能性もある。今回は、縄文時代の性差（ジェンダー）の描き方を、「考え続けることの大切さ」を生徒たちには伝えたが、歴史的な価値観と現代的な価値観の中でどのようにバランスをとって伝えていくかは大きな課題であると感じた。
- ・現代の家族像を投影して、縄文時代の家族像を描く歴史学習漫画の活用方法には注意が必要だと感じた。
- ・配布プリントへの記入内容や当日のやり取りの中で、「家事＝楽なこと」「外に狩りに行くこと＝大変な仕事」と認識している生徒が一定数いることに気づいた。一回完結ではなく、教室授業での実践を試みる必要性を感じた。特に、本校は中高一貫校の男子校であるため、体系的に考え続けていく仕組みが必要であることを痛感した。

【参考文献】

- 松本直子「ジェンダー教育と考古学」『文化資源学セミナー「考古学と現代社会」2013—2016』
 （金沢大学人間社会研究域付属 国際文化資源学研究センター2017）HP閲覧
<http://hdl.handle.net/2297/00049056>（閲覧日 2020/3/20）
- 松本直子「日本の博物館におけるジェンダー表現の課題と展望 -歴博展示に触れつつ-」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第219集 2020）

【事前課題 解答シート】

☆あまり難しく考えなくて良いよ～。思ったままに、記してください！！

Q 1) 【資料A】中の家族構成

Q 2) 【資料C】・【資料D】から読み取ることのできる縄文時代の生業（箇条書き）

【資料C】

【資料D】

Q 3) 【資料C】【資料D】と【資料E】の男女の描き方（狩り）の違いについて

当日個人課題① _____ 年 組 番 氏名

Q1) 以下の【アドバイス】、事前課題解説などを参考にした上で、第一展示室内の男女の展示のあり方について、気付いた点をできる限り記してください。

【アドバイス】

- ①女性、子ども、老人が、成人男性と同程度表現されているか。
- ②誰の視点で表現されているか、男子の視点に偏っていないか。
- ③性役割や家族のあり方に現代的なジェンダー観がいかに反映されているか。

Q2) 上記【資料】や君自身が気づいた点のうち、第一展示室において、「ジェンダー」の観点から改善した方が良いと感じた点を1点だけ記してください。(なお、当日課題③とあわせて「逗子開成中学校から歴博への挑戦状」として、展示担当者にお渡しします。)

展示名：

*参考資料：当日個人課題③ _____ 年 組 番 氏名 _____

Q1) 今回の「性差の日本史」展示の中で、君が最も印象深いと感じた展示を二つ選んでください。展示全体でも一部分でも構いません。その上で、以下のシートに、その理由を含めて記してください。(君ならではの視点で、出来る限り詳しく書いて欲しい!)

* 展示番号 _____ → 展示名 : _____

* 第 _____ 展示室 → 展示名 : _____

*コロナ禍でもありますので、周囲への配慮を！展示番号とアドバイスを記入したらコメントは、展示室内の開けた空間や展示室外で記入してください！

